



教員が研究の楽しさを語る

第167回(7/25)佐藤 宗子 先生推薦

ブックガイド



※掲載されている本はL棟2階 あかりんアワーのコーナーに配架されます。

Book1

現代児童文学を問い続けて(児童文学批評の新地平1)

著者：古田足日著

出版：くろしお出版, 2011.11

コメント：「現代児童文学」出発期から評論と創作の双方で中心的な役割を果たし続けてきた著者による、最後の評論集。歴史的な概観と、21世紀の状況へのまなざしがわかる。



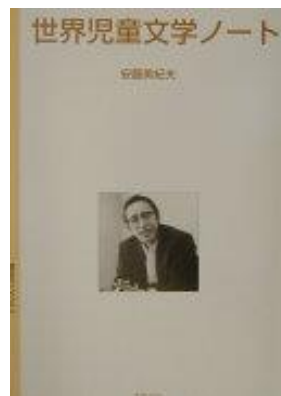
Book2

世界児童文学ノート(てらいんくの評論)

著者：安藤美紀夫著

出版：てらいんく, 2002.5

コメント：もともとは1970年代に偕成社から3分冊で刊行されたもの。19世紀後半からの近代児童文学の流れを、世界全体を念頭に置きつつ時代を「輪切り」にして語る。



Book3

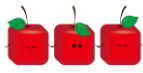
砂田弘評論集成(てらいんくの評論)

著者：砂田弘著

出版：てらいんく, 2003.5

コメント：社会と子どものかかわりを意識し、創作と評論の両輪で半世紀を駆けてきた著者の、時代を斬る眼が魅力的な評論集。それぞれの発表時期の社会・文化状況がうかがえる。





Book4

現代児童文学の可能性(研究日本の児童文学4)

著者：石井直人 [ほか] 著；日本児童文学学会編

出版：東京書籍, 1998.8

コメント：児童文学を多様に捉えようとする研究叢書のうちの一巻。「現代児童文学」の特徴を、さまざまな方向から考える論文集。1990年代における研究の到達点。



Book5

図説子どもの本・翻訳の歩み事典

著者：子どもの本・翻訳の歩み研究会編

出版：柏書房, 2002.4

コメント：19世紀後半からの日本における〈日本語児童文学〉としての翻訳が、どのような多様さを帯びていたかを実感しつつ、その意味を問い直す契機となる一冊。



Book6

「物語」のゆらぎ：見切れない時代の児童文学(児童文学批評の新地平3)

著者：奥山恵著

出版：くろしお出版, 2011.11

コメント：1990年代からゼロ年代にかけて、世界全体が変化する中で、児童文学の〈物語〉をどう捉えるかという問題に迫る。本書で著者は日本児童文学者協会新人賞を受賞。

